

## 質疑応答の状況（要旨）

質 問 ・ 意 見	回 答
<p><b>1 善通寺市浄水場中央監視制御設備外更新工事</b></p> <p>Q 1 応札者が1者であった原因についてどのように考えているのか。</p> <p>Q 2 同施設内において、2つの工事が取り除き対象となっているが、2つとも、当該工事とは工種も規模も全く異なる。取り除き制度の趣旨とは何か。</p> <p>Q 3 当該落札業者の総合評価の内容について、技術提案点数が高いわりに、配置予定技術者の項目が0点である。加算点方式であるため問題はないが、アンバランスに感じる。</p> <p>Q 4 入札参加要件を満たす事業者は9者を想定していたとのことだが、今回落札した業者は一番大手の事業者なのか。また、落札業者は、善通寺市浄水場と丸亀市浄水場の既設メーカーなのか。</p>	<p>A 1 当該工事は、多種にわたる機器調達が必要であること、また浄水場を稼働させながらの工事であるため、浄水場の運転管理との調整など施工方法や時間的制約が多いこと、工事箇所が分散していることから移動の負担もあること、工事期間が15か月と長期で技術者の確保が困難であることなど、こういった事情を総合的に勘案して、応札を見送った事業者が多かったのではないかと推察している。</p> <p>A 2 取り除きは、より多くの事業者の受注機会の確保のために設けている。入札参加可能業者と取り除き対象業者が重複しているか否かで個別に配慮するには事務が煩雑になることから、このような取り扱いとしている。</p> <p>A 3 配置予定技術者の工事経験評価については、当該工事の予定価格に対する、当該技術者の過去の工事实績価格を評価することとしている。今回は予定価格が高い工事であったため加点されなかったが、今回受注し無事竣工すれば、当該技術者は今後の総合評価において有利になる。</p> <p>A 4 参加可能事業者はコリンズで確認したものであるが、当該落札業者を含む2者が県内業者であり、残り7社は全国規模の県外業者である。 また、今回の落札業者は、既設メーカーではない。</p>
<p><b>2 東かがわ市三本松南新町地区配水管更新工事（下水道支障移転2期工事）</b></p> <p>質問・意見なし</p>	
<p><b>3 土庄町県道上庄池田線配水管電気設備外更新工事</b></p> <p>Q 1 入札参加要件を満たす事業者20者を想定していたとのことだが、そのうち営業所の拠点の小豆島にある事業者は何者か。</p>	<p>A 1 小豆に拠点がある、電気工事でAランクの事業者は1者のみであり、その事業者が落札業者であった。</p>

#### 4 仏生山町他水質自動監視装置更新工事

Q 1 電気通信工事は1者応札が多い印象である。仮に今回の工事を一般競争入札で発注したとしても1者応札の可能性は高かったと考えるか。

Q 2 入札参加要件を満たす事業者は3者しか想定していなかったのか。

#### 5 雑古屋第2水源地井戸改修工事

質問・意見なし

#### 全体を通して

Q 1 電気・電気通信工事について、クラウド化は進んでいるのか。

Q 2 IoT活用におけるクラウドとなると応札業者に変化はあるか。また、クラウド管理を採用する分野の区別はあるのか。

Q 3 大手事業者では、AIを使っている事業者もあるが、地元の電気・電気通信事業者でもAIを扱っているのか。

Q 4 今回の審議期間の工事は1者応札が少ないようだが、特別に工夫したことはあるのか。

A 1 高松ブロック統括センターでは公募型指名競争入札を採用しており、入札参加要件を満たせば参加可能であるため、一般競争入札を行っても結果は同じであったと考える。

A 2 コリンズで施工実績があることを確認できた業者は3者であるが、コリンズは500万円以上の工事しか登録されないため、他にも入札参加資格を有する業者がいた可能性はある。

A 1 設備の操作には使わないが、監視はクラウドを採用している。

A 2 複雑なシステムを構築する工事は大手ベンダーが得意分野であると思う。クラウドの採用は「制御」と「監視」で区別しており、「制御」では、セキュリティの問題からクラウドを採用していない。国が標準プラットフォームを整備しているが、あまり活用されていない状況。

A 3 漏水や機器保全についてはAIを使用しているが、まだ一般的とまでは言えない。

A 4 時期による傾向があるわけではなく、工事内容によるものと考えている。